進路だより
No.15

－平成２７年１０月２８日－

貝塚市立第一中学校　進路通信
〒597-0071 貝塚市加神１丁目５番１号
TEL 072-422-1527　FAX 072-422-1271

生徒と保護者のための進路情報です。保護者の方も必ずご覧ください。

２学期は、勉強に専念する正念場！

２学期は、志望校を絞り込み、勉強に専念する正念場です。もうすでに目標校を視野に入れ、気持ちを引き締めて勉強に打ち込んできた人も多いことでしょう。しかし、中にはまだ進路を決められずに悩んでいる人もいると思います。

「学校の数だけ教育がある」と言われるぐらい、各校が豊かな個性、特色を競い合っているわけですから、そうした高校の中から自分に最もふさわしいと思える高校を選ぶのは容易なことではありません。ひと口に「入りたい」高校と言っても、その学校の教育の中身や難易度など、進路選択に必要なポイントを的確につかむことは難しいと思います。残念なことですが、入学後、「こんなはずではなかった」と嘆く高校１年生が毎年かなりの数にのぼっているのが現実です。

「どの高校をめざすか」ということは、自分自身の将来につながる大切な選択です。それだけに「進む道」は、安易な気持ちで決めないでもらいたいです。もちろん学力レベルと入試難易度が密接に関係してきますので、進路選択段階で学力レベルを的確に把握することはとても重要なことです。それらを踏まえて強調したいのは、「入れる」高校を選ぶのではなく、「入りたい」気持ちをしっかり持ち、「目標校」から目をそらさないことです。進路選択のキーワードは「入れる」ではなく「入りたい」という気持ちです。

２学期の大切さを知ろう！

２学期は学力を伸ばしたり、進路を選択したり、受験生にとってはとても重要な時期ですが、そのほかにも２学期には大切なことがたくさんありますので、しっかりおさえておきましょう。

その１つが学校行事です。皆さんは受験生ですが、中学３年生でもあります。体育大会や文化発表会などの行事には積極的に取り組むべきです。また、クラスの取り組みにもできるだけ参加して、同級生とともに大いに楽しみましょう。やりきったという充実感は受験勉強のやる気にもつながることでしょう。

もう１つは、調査書(内申書)と２学期の成績についてです。大阪府公立高校の入試には、中３の１年間(平成29年度入試は中２・中３の２年間)の成績をもって内申の評価が決まります。この内申点をつけるうえで、１学期や３学期よりも２学期の成績がかなりの重みを持っていると言われています。さらに内申の評価はどの教科について

も同等に扱われます。つまり、入試教科以外の内申点アップが受験で勝つ力を高めることにつながると言えるでしょう。

私立入試では、合否判定の資料となるのは学科試験の成績という学校がほとんどなので、調査書の内申点によって合否が左右されることは少ないですが、公立入試では学科試験の成績だけでなく、内申点の占める割合も大きいです。“学科試験と内申点の総合成績で合否が決まる”公立高校の選抜システムを理解し、学力と同様に内申点アップにも意欲的に取り組むことが必要不可決となります。

平成２８年度の大阪府公立入試では、選抜の区分や合否決定のしくみなど、大きな制度改革が行われます。これから各学校や教育委員会からいろいろな入試情報が発表されるので、注意しておきましょう。

「充実した２学期こそ入試を突破する力となる」ということを忘れずに日々，有意義に過ごしてください。

公立高校入試制度変更点（5月の進路説明会より）

平成２８年度入試からの変更点について、もう一度確認しておきます。

まず、選抜機会が変更になりました。

私立入試	→	特別入学者選抜	→	一般入学者選抜	→	二次入学者選抜
２月10日･11日		２月22日		３月10日		３月下旬

①前期・後期入試を廃止し、３月10日の「一般入学者選抜」に入試が一本化されました。ただし、特別入学者選抜を実施するのは以下の高校です。「市立」は大阪市立の高校です。

・市立工芸(建築デザイン科･インテリアデザイン科･プロダクトデザイン科･映像デザイン科･ビジュアルデザイン科)
・市立工芸(美術科)・岸和田市立産業(デザインシステム科)・摂津(体育科)・大塚(体育科)
・市立桜宮(人間スポーツ科)・市立汎愛(体育科･武道科)・東住吉(芸能文化科)・夕陽丘(音楽科)
・市立咲くやこの花高校(演劇科)・港南造形(総合造形科)・布施北(デュアル総合学科)
・成城・西成・長吉・箕面東・岬(エンパワメントスクール)
・桃谷(多部制単位制Ⅰ部・Ⅱ部　普通科)　・市立中央(昼夜間単位制　普通科・ビジネス科)
・柴島・松原・堺東・貝塚(総合学科　知的障がい生徒自立支援コース)
・その他の知的障がい生徒自立支援コース

②同一校内の学科間の複数志望(例：文理学科と普通科など)ができるようになりました。
それぞれの学科に第１志望・第２志望等順位をつけて出願、同一の学力検査問題で合否判定を行います。たとえば、三国ヶ丘(普通科･文理学科)、岸和田(普通科･文理学科)、和泉(普通科･グローバル科)、佐野(普通科･国際教養科)などです。

次に、調査書についてです。

目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)を導入され、各教科(国語・社会・数学・理科・音楽・美術・保健体育・技術家庭・英語)の評定については、それぞれ５段階になります。また、総合点を算出する際には、９教科の評定に軽量をつけず、同等に扱います。

また、「活動/行動の記録」の欄が新設され、教科・総合的な学習の時間・特別活動・部活動・その他校内での日常生活を含む中学校での教育活動全般における活動及び行動の記録を、具体的事実を示して記載します。